

I 実践

1 本校の人権教育の目標

○人権尊重の精神を養い、民主的な人間関係を育成する。

・自分の好き嫌いにとらわれずに、誰に対しても公平・公正に接しようとする生活態度を育てる。

小学部：誰とでも仲良くする生活態度を育成する。

中学部・高等部：誰に対しても公正公平に振る舞う生活態度を育成する。

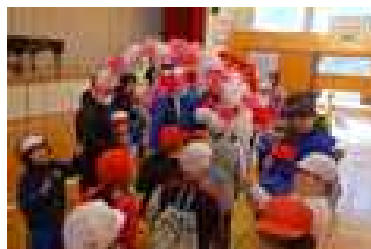
・地域社会との交流への支援を図る。

2 実践及び成果

(1) 児童・生徒の取り組み

ア 小学部の取り組み

本校では、自他の良さに気づき、互いに認め合いながら温かな気持ちで学校生活を送ることができることを目指している。そのために、温かな言葉かけの試みや思いやりの心を育むことを意識した取り組みを行ってきた。また、教科・領域に合わせた日常生活の指導や生活単元学習を通して、あいさつや他者に対する意識、おもいやりの心を育てるようにしている。あいさつや感謝の言葉かけを教師が児童に働きかけたり、児童と教師、児童同士の間での「あいさつ運動」や「ありがとう活動」を推進している。対外的な活動では、学校間交流、居住地校交流など、他の学校の同学年の友達と交流する機会を設けている。このことは、本校の児童にとって、他者と交流する機会を得、社会性を高めるよい機会となっている。本年度も、中里小学校(低学年)・油縄子小学校(中学年)の交流会活動を行った。交流することで、お互いを認め合い、自己肯定感が高められたり、社会の中での他者を意識した自分に気づいたりする機会になった。



<中里小学校との交流会>

<油縄子小学校との交流会>

イ 中学部の取り組み

生活単元学習では、「職業」について学び、地域の事業所の方を達人（ゲストティーチャー）として招いて教わった技を生かして、食品製造班（豆腐・団子・サンドウィッチ）や美容班、木工班、写真班に分かれて文化祭（いちょう祭）のイベントを行い、段階的に学習をすることができた。文化祭では、達人から教えてもらった技を保護者や地域の方に見てもらうこともでき、生徒たちは、楽しみながらも意欲的に活動することができた。また、職場見学として事業所で働く先輩たちの姿を見たり、職場体験として事業所で実際に働く体験を通して、働くことへの関心を高めるとともに目上の人に対する畏敬の念をもつことができた。これらの学習から得た達成感や、一緒に働いた友達や教えてくれた事業所の方への感謝の気持ちは、将来の自分の職業観にもつながった。

総合的な学習の時間では、本校に隣接している多賀中学校との交流会に参加した。多賀中生と一緒にスポーツやゲームをする中で、徐々に打ち解け、最後には一緒にダンスを踊り、お互いに一体感を得ることができた。「わたしのまちの学校です。わたしのまちが学校です。」のスローガンのもと、学校内外を問わず、学習の場を設定することで、生徒の自己肯定感や情操を育むことができた。

また、年3回さわやかマナーアップキャンペーンを行い自力通学の生徒がスクールバスの生徒にあいさつ運動を行ったり、道徳の授業では、校内でのあいさつ体験、災害時に備えての炊き出し体験などの体験型の授業を予定したりして、本校の人権教育の柱である「あいさつ・感謝・協働」について考えたり感じたりする機会を設定している。



<道徳の授業>



<さわやかマナーアップキャンペーン>

<いちよう祭・イベント>

<多賀中との交流会>

ウ 高等部の取り組み

生徒会を中心として、毎学期ごとに行っている「さわやかマナーアップ週間」では自力通学の生徒や各学級の代表生徒が、朝の登校時にスクールバスの到着場所と昇降口に立ってあいさつを行った。期間が短かったものの、回数を重ねるたびに、恥ずかしがらずにハイタッチなどをしながら楽しくあいさつができる児童生徒が増えてきた。今後も、定期的にあいさつ運動を行い、あいさつが元気に飛び交う学校を目指していきたい。

また、高等部全体の活動として、生活単元学習「みんなのためにできること」では今年度も校舎周辺の清掃活動に取り組んだ。各学年のクラスごとに分かれ、普段できない清掃箇所を掃除することできれいにすることの大切さや地域の人たちに感謝される体験をすることができた。毎日の清掃活動とともに今後も継続していきたい。

隔年で行われるいちよう祭では、保護者や地域の人たちとともに作業製品の販売や接客サービスをさせていただく貴重な機会を得ることができた。たくさんの作業製品を販売することで地域の人のために仕事することへの充実感を得ることができた。今後も生徒の道徳的心情や感性を耕す機会を、今後も設定していきたい。



<いちよう祭販売>

<さわやかマナーアップ運動>

<歩道の清掃>

(2) 学校・教職員の取り組み

ア 本校の人権教育目標を受け、以下の項目について全職員で共通理解を図った。

①学級目標の設定 ②あいさつの奨励 ③ありがとうの推進

イ 学校公開

「わたしのまちの学校」として、市立の良さを生かし、良さを伸ばしていく取り組みと、「わたしのまちの学校」として、日立市内の教育資源を最大限に活用する取り組みの中で外部の方々とのコミュニケーションと交流により、相互理解を図った。

ウ 保護者との連携

保護者との個別面談(5月・9月・2月)や夏休みの家庭訪問のほかに、必要に応じて家庭と連絡を取り合い、児童・生徒の実態や進路希望などについての共通理解を図ることによって個に応じた指導に努めている。

エ 人権コーナーの設置

各学部の掲示板に、人権関係のポスターや作品募集、人権標語の本校作品などをして

いる。

II 成果と今後の課題

○交流及び共同学習は、多くの人々と触れ合うよい機会であった。今後は、これらの活動を通して得られたものを、授業や学校生活に生かしていく工夫をしたい。

○外部講師を迎えた研修会の実施の他に、小中高での実践報告会などを企画実施し、共通理解と研修をさらに深めるようにしたい。